

1 第32回全国都市緑化あいちフェア

長久手市 他

全国都市緑化フェアは国土交通省の提唱により、都市緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として、毎年各地で開催されています。第32回全国都市緑化あいちフェアは、愛・地球博記念公園をメイン会場に、平成27年9月12日から11月8日までの58日間、テーマは、【緑のある暮らしの明日を愛知から「花を愛し、緑のチカラを知る 全国都市緑化 愛・知 フェア】として開催します。

第32回を迎える愛知県の全国都市緑化フェアは、来場者はもとより広く全国の人々に、もっと「花」を愛し、もっと「緑」の力を知ってもらう、愛・知・緑化フェアとして開催します。そして、「愛知万博からの10年」を踏まえ、「自然の叡智」というテーマや成果が暮らしの中の緑にどう浸透したかを発信するフェアとするとともに、緑の力の「見える化」等により、花や緑のある暮らしのすばらしさが実・体感できるフェアとすることとしています。さらに、これからの花と緑のまちづくりに欠かすことのできない県民協働を積極的に推進し、フェアが一過性の効果で終わらずに時間的・空間的に連続し、花と緑のまちづくりとして持続継続することを目指します。4つの基本方針のもと、愛知県らしい発信力をもった全国都市緑化フェアの開催を目指すとともに、事業運営、協働体制づくり、会場計画等、新たなフェアを試行することとしています。

- 【基本方針】①既存ストックの魅力を活用するフェア ②みどりのチカラを体感するフェア、  
③協働をエンジンとするフェア ④愛知県ならではのフェア



2 日光川水閘門改築事業

海部郡飛島村

日光川流域は一宮市、津島市をはじめとする9市2町1村からなり、中下流部はわが国最大の海拔ゼロメートルを下回る地域となっており、流域の約2/3は雨水排水にポンプによる強制排水が必要となっています。

日光川水閘門は日光川河口に位置し、現施設は昭和34年の災害史上未曾有の高潮被害を愛知県にもたらした伊勢湾台風の復旧事業によって昭和37年完成し、竣工以来、日光川流域の防災の要として住民の安全安心に寄与してきました。その日光川水閘門も建設後50年近くが経過し、本体の老朽化の進行や地盤沈下の影響による高潮に対する必要な高さ不足や流下能力不足、さらには東海地震、東南海・南海地震などの大規模地震の際には損傷により機能が損なわれ、地震後来襲する津波を防護できない可能性があることから改築が必要となってきました。改築予定位置については、水閘門改築の施工期間の洪水に対する影響や周辺環境への影響を最小限にすることなどを考慮し、現水閘門の下流側としました。



改築予定位置については、水閘門改築の施工期間の洪水に対する影響や周辺環境への影響を最小限にすることなどを考慮し、現水閘門の下流側としました。

現水閘門は水門8門、閘門が1門ですが、経済性、流下能力等から水門4門、閘門1門で径間長20mとしました。水門敷高は日光川本川の改修計画で定められた流下能力を確保できるT.P-5.8mとしています。大規模地震及び不同沈下への対応として、躯体は、鋼板と鉄筋コンクリートを用いて造る鋼殻構造といった丈夫な構造を採用することとしました。

また、地球温暖化に伴う海面上昇や広域地盤沈下にも対応できる構造としました。これら、海面上昇等の進行程度は、現在の予測では不確実な状況でありますので、実施した対策が将来的に無駄にならないよう、将来的に対策が困難な躯体及び基礎などは、海面上昇等を考慮して先行的に対策を行うこととし、将来的に対策可能なゲートなどは、気候変化量に合わせた確認型の対策を行うこととしました。愛知県では、平成19年度に国の補助事業である「大規模河川管理施設機能確保事業」の採択を受け、更なる安心安全に対応した新水閘門が1日も早く完成できるよう改築事業を進めおり、平成29年度に完成予定です。

### 3 名古屋環状2号線西南部事業

海部郡大治町

名古屋環状2号線は、名古屋市周辺の10km圏内に位置する延長約66kmの環状道路で、名古屋第二環状自動車道【名二環】や伊勢湾岸自動車道などの自動車専用道路（専用部）と、国道302号（一般部）で構成されています。専用部は、名古屋西JCT～飛鳥JCT（仮称）を除き、既に開通しており、早期全線開通を目指し工事がすすめられています。

名古屋港に直結し、名古屋環状2号線の専用部がない西南部・南部Ⅱ区間における国道302号は、名古屋港の物流道路として国際コンテナを積載した大型車の交通量が多く、国道302号梅之郷交差点を中心に慢性的な渋滞が発生しています。また、国道302号梅之郷交差点の北に位置する名古屋市中川区・港区では、国道302号沿道周辺に住宅や大型商業施設が進出し、朝夕の通勤による混雑に加え、名古屋港を利用する大型車（物流交通）が市街地を通行するなど、安全上の問題が顕在化しています。これらの問題を抱えている都市空間において、用途に合った交通特性にするため、名古屋環状2号線の早期整備が必要です。

現在、専用部については、国土交通省・中日本高速道路株式会社により、事業が進められています。

